

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう」 教材名「文様 / こまを楽しむ / 【じょうほう】全体と中心」

2 単元の目標

全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（〔知識及び技能〕(2)ア）

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（C(1)ア）

段落の中心と具体例を区別し、文様やこまの説明の構成を捉える学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（C(1)ア）	①段落の中心と具体例を区別し、文様やこまの説明の構成を捉える学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

段落の中心と具体例を区別し、文様やこまの説明の構成を捉える。この教材では、段落の役割と中心・例を結ぶ図を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

段落ごとに短い見出しを付け、中心と例のカードを対応させる。教材の写真は転載せず手元で参照する。想定する難しさは、好きなこまの紹介に偏り、段落相互の関係を見ない。評価では、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えているかを、段落の役割と中心・例を結ぶ図と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～4	○各段落の中心になる語や文を選び、例が何を説明するのかを結ぶ。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	5～7 （本時）	○各段落の中心になる語や文を選び、例が何を説明するのかを結ぶ。導入と結びの段落も読み、説明全体の中心を短く言い換える。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	8	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認して聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(C(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「この例を読むと、前の説明のどんなことが詳しく分かりますか」 【めあて】段落の中心と具体例を区別し、文様やこまの説明の構成を捉える。 〈予想される児童の反応〉 ・例だけを集めても中心の説明にならない。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この例を読むと、前の説明のどんなことが詳しく分かりますか」 各段落の中心になる語や文を選び、例が何を説明するのかを結ぶ。導入と結びの段落も読み、説明全体の中心を短く言い換える。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・例だけを集めても中心の説明にならない。 ・違う例でも同じことを詳しくしている。	段落ごとに短い見出しを付け、中心と例のカードを対応させる。教材の写真は転載せず手元で参照する。 想定する難しさ：好きなこまの紹介に偏り、段落相互の関係を見ない。 評価では、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えているかを、段落の役割と中心・例を結ぶ図と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 段落の役割と中心・例を結ぶ図を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・違う例でも同じことを詳しくしている。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この例を読むと、前の説明のどんなことが詳しく分かりますか」。中央は、段落の役割と中心・例を結ぶ図に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

